







新玉子箱叙

侘借れ其うらを歌連ぶの次よしとて  
あつらひ向上は一路又藤ふはしとて  
いてや古きき世ホもなすゆるく  
幸あはは一しひの所作あはし  
あのみまゝもんをよとてよりほ  
俗活お活をいして造はも  
まきと顛沛にもあはしとて





神の大ねよきし日むしめ  
 ころよのいんねはくしむのま  
 うつとーう老おるまの先世  
 之口やうおひひしきんん  
 之口やけさるるまきまきし  
 惠方多しね時いつくしは  
 雑煮ーおるもあまね難煮地  
 蓬菜の上やみまね款二人  
 太薯ーやほよいしー持ふ  
 鏡餅かこもら母みまうて又世し  
 萬歳や舞おさよめれさるる款  
 太祇 青羅 暁臺 太祇

万歳やうーれさるる實ねあ  
 まるまやまおらふふも終太夫  
 春駒や男うはるる女の子  
 羽子やみまやま心まぬ大まきけ  
 宝引投まねやおのまき引得し洞かき  
 御降おさるるお痛よけらる二は哉  
 歳玉とー玉や抄子取はふるよの産  
 歳玉や子うぬまの一匹三代  
 子日買らふれおやま自まよ子れ日哉  
 若菜まはせ人おれらるるおれらけ  
 ねけよまひてさるるわらまあつと  
 太祇 太祇 太祇 太祇 太祇 太祇 太祇 太祇

齋

七艸

初寅  
佐儀長

そのまゝ聖と編のほまおわう  
 廿五の肩後くく廿六の  
 廿七の肩後くく廿八の  
 廿九の肩後くく三十の  
 三十一の肩後くく三十二の  
 三十三の肩後くく三十四の  
 三十五の肩後くく三十六の  
 三十七の肩後くく三十八の  
 三十九の肩後くく四十の  
 四十一の肩後くく四十二の  
 四十三の肩後くく四十四の  
 四十五の肩後くく四十六の  
 四十七の肩後くく四十八の  
 四十九の肩後くく五十の

節  
御忌  
養父入

福寿艸  
木の芽

せらびやあつて梅の花  
 娘入や〜娘もま〜は思後  
 石思の〜の時さよの〜の  
 やふ入や〜娘もま〜は思後  
 廿五の〜の時さよの〜の  
 やふ入や〜娘もま〜は思後  
 廿六の〜の時さよの〜の  
 やふ入や〜娘もま〜は思後  
 廿七の〜の時さよの〜の  
 やふ入や〜娘もま〜は思後  
 廿八の〜の時さよの〜の  
 やふ入や〜娘もま〜は思後  
 廿九の〜の時さよの〜の  
 やふ入や〜娘もま〜は思後  
 三十の〜の時さよの〜の  
 やふ入や〜娘もま〜は思後  
 三十一の〜の時さよの〜の  
 やふ入や〜娘もま〜は思後  
 三十二の〜の時さよの〜の  
 やふ入や〜娘もま〜は思後  
 三十三の〜の時さよの〜の  
 やふ入や〜娘もま〜は思後  
 三十四の〜の時さよの〜の  
 やふ入や〜娘もま〜は思後  
 三十五の〜の時さよの〜の  
 やふ入や〜娘もま〜は思後  
 三十六の〜の時さよの〜の  
 やふ入や〜娘もま〜は思後  
 三十七の〜の時さよの〜の  
 やふ入や〜娘もま〜は思後  
 三十八の〜の時さよの〜の  
 やふ入や〜娘もま〜は思後  
 三十九の〜の時さよの〜の  
 やふ入や〜娘もま〜は思後  
 四十の〜の時さよの〜の  
 やふ入や〜娘もま〜は思後  
 四十一の〜の時さよの〜の  
 やふ入や〜娘もま〜は思後  
 四十二の〜の時さよの〜の  
 やふ入や〜娘もま〜は思後  
 四十三の〜の時さよの〜の  
 やふ入や〜娘もま〜は思後  
 四十四の〜の時さよの〜の  
 やふ入や〜娘もま〜は思後  
 四十五の〜の時さよの〜の  
 やふ入や〜娘もま〜は思後  
 四十六の〜の時さよの〜の  
 やふ入や〜娘もま〜は思後  
 四十七の〜の時さよの〜の  
 やふ入や〜娘もま〜は思後  
 四十八の〜の時さよの〜の  
 やふ入や〜娘もま〜は思後  
 四十九の〜の時さよの〜の  
 やふ入や〜娘もま〜は思後  
 五十の〜の時さよの〜の  
 やふ入や〜娘もま〜は思後





畠中は梅は又灰まき男の部  
 蒼くふもさるる梅の花  
 雪の戸やほく梅さす梅は  
 梅の雪まきやせり聖い  
 梅のうに園梅のりろく梅の  
 梅の月梅まきとさハ松の月  
 梅のこころも刀さす梅の  
 梅の月まきくさるる梅は  
 梅の雪まきか梅は日乾か  
 梅の月白いつとつと梅は  
 梅の雪まきの梅はさす梅は

弁

美をけり梅は  
 梅の雪まきか梅は日乾か  
 梅の月白いつとつと梅は  
 梅の雪まきの梅はさす梅は  
 梅の雪まきか梅は日乾か  
 梅の月白いつとつと梅は  
 梅の雪まきの梅はさす梅は  
 梅の雪まきか梅は日乾か  
 梅の月白いつとつと梅は  
 梅の雪まきの梅はさす梅は

太我  
葦村

き  
屋

吹あきて舟の中よりしし柳  
 極よる杯の海しりきさ  
 ちかの揚よふけけしぼり  
 ま極よら路のさうけら  
 のしりと極よりしり  
 やちけし煙をさくし柳  
 灯をさくし油をさくし  
 煙帯し柳村の柳はさくし  
 ふうりてまをさくし柳  
 柳おや柳の中おさくし  
 柳のさくし柳中門の内

曉基

蘭文

路基

花活よ二寸短しし  
 え舟おさくししりや  
 大きをさかして昔し  
 教陰よおひしりし  
 芥の多や揚ありし  
 古るよりちかきし  
 家新のふおさくし  
 芥さよふやあさくし  
 皮ひしし種多し入江  
 えしちかき夕ほしちか  
 けしししすしちか

太我

東文

太我

蘇村

東文

太我

芥

芦の角

松若緑

松若緑

松の花

まき枝もなほあつらふをまつぬ花

まき枝

海苔

海苔すくふ水のしほやあつらふ

海苔村

らう海のりか江戸糸あつらひうれ

まき枝

まき海苔や度産よけし葉うれ

果文

和布

まよけ戸や二見のわらあつらひう

海苔村

鶯

江戸やうきさき常やあつらう

太然

うきさきや葉のうきさきのあつら

海苔村

まよけ二声舟のぼろりうれ

海苔村

まよけさきやうきさきのあつら

海苔村

鳥本こまき葉あつらう

海苔村

まよけさきよきさきうれ

海苔村

まよけさきよきさきうれ

海苔村

まよけさきよきさきうれ

海苔村

まよけさきよきさきうれ

海苔村

まよけさきよきさきうれ

海苔村

まよけさきよきさきうれ

海苔村

まよけさきよきさきうれ

海苔村

まよけさきよきさきうれ

海苔村

まよけさきよきさきうれ

海苔村











春月

は川の末ありやうーまの月  
 大さくわつうひらりまの月  
 くらさかハ煙きこつこつまの月  
 まきく葱の折ふ寸留るま  
 情さふ拾就く余まきこつま  
 冥の戸の火消ちいさき余まきか  
 較吟は余まきこつまうま

余寒

如月

如月又えつこ聖まきのうまが  
 まき

初午

初午やよのけろむのこ  
 初午や人こくろいかり  
 初午やよも掛し人のこま  
 ちろゆく初影をやわらん像  
 わらん余まきこつまうま  
 傾城の振るてわふわらん像  
 わらん余や教飯上謀と啼鳥  
 わらん余やや下上まきお山  
 古寺や洞元わらん像  
 起くよらんや喉ふいんわ  
 斤痛まのいん様まきこつま

涅槃舎

彼岸

初午やよのけろむのこ  
 初午や人こくろいかり  
 初午やよも掛し人のこま  
 ちろゆく初影をやわらん像  
 わらん余まきこつまうま  
 傾城の振るてわふわらん像  
 わらん余や教飯上謀と啼鳥  
 わらん余やや下上まきお山  
 古寺や洞元わらん像  
 起くよらんや喉ふいんわ  
 斤痛まのいん様まきこつま



系盤  
鳥巢

けろふやまゝれろりね虫の尻  
 陽をけ中よまろくくむ戸口外  
 けろふやま水蒸け字をし之  
 陽をけにけろろめ有る一  
 けろふや松人わろ杖ねえ  
 けろふ中よりけの起るはけ  
 陽をけや一杖つよちくさ  
 けけろふの介ハ舞ぬち一さ  
 系盤よ万解りけやこ  
 いゆふのろれくく起るる  
 けろふ東やまろ一寸ねろくさ

雉子

けろ東やあろねせ後ろの  
 けけ東やゆるりまはけけ  
 雉子連ふくまろく圃ろ  
 けろき男もろ家きまろ  
 雉子中へ入る家けはけ  
 けろまろねろろけけ  
 けけの川よよこまろ  
 人の親ね焼ねまろ  
 けのあろく又幸かろ  
 けろろねねけけけ

太  
 武  
 草  
 村  
 焼  
 卷  
 系  
 文



蝶

蝶をく人耳くさうくしん  
 ぼるハあり丁おたしん  
 ちまきしんおりおんしん  
 つしんとはしんおんしん  
 堀川の雷しんしんしん  
 乙きしんしんしんしん  
 しろしんしんしんしんしん  
 伊なり者おんしんしんしん  
 ちまきしんしんしんしん  
 蝶おんしんしんしんしん  
 ちまきしんしんしんしん

蝶巻  
 果又  
 太我  
 幸村  
 幸村

蜂

蛙

すしんしんしんしんしん  
 蝶しんしんしんしんしん  
 ちまきしんしんしんしん  
 おんしんしんしんしんしん  
 ちまきしんしんしんしん  
 蝶しんしんしんしんしん  
 ちまきしんしんしんしん  
 蝶しんしんしんしんしん  
 ちまきしんしんしんしん  
 蝶しんしんしんしんしん  
 ちまきしんしんしんしん

蝶巻  
 果又  
 太我  
 幸村  
 幸村



初櫻

咲初しうんぬ桜とけりうりうり  
そのかきくさぬさあや初はくさ  
中なる梅よりけりおささの  
けり花やむせきうめさあや  
一日ハまめさくえさうりはくさ  
いと梅打ハ初はくさ外  
いと梅打身よりけりはくさ  
赤梅咲くさ下へさあや  
ふ梅咲くさあや月あや  
咲くさうり初はくさあや  
梅ハ枯く梅木の基はあや

太我

咲屋

果交

尋村

系交

咲屋

系交

太我

椿

接木

苗代  
畑打

接候ぬきかき一柱えり  
その内へ初きくさ梅木の  
くさのみさあや梅木の  
苗代よりけり初はくさ  
苗代よりけり初はくさ  
耕まやむり右系はくさ  
畑打や細き初はくさ  
畑の梅はくさ初はくさ  
年々や里はくさ畑はくさ  
赤くさあや初はくさ

尋村

大我

尋村

咲屋

咲屋

系交

燒野

△上十八

野を焼や荒くも武生たたる火  
 この焚くとも今や火より焼く野  
 かりりや焼ぬのすもれまを  
 川越てふおえても焼ぬ外  
 うせまよ花を折るひら  
 山葵ありて倍ちり寸草も  
 わらひ採てえんよ流ふいり  
 負ふよよわらひおていり  
 かのむやよ下らる向ふや  
 草お花よ倍の体は下らる  
 けのるやわ泉らめ小まひ

菜花

山葵

独活

太我  
 喜村  
 太我  
 喜村  
 太我  
 喜村  
 太我  
 喜村

凡中

かのむやよ下らる向ふや  
 草お花よ倍の体は下らる  
 けのるやわ泉らめ小まひ  
 かの花や花女わらり花のら  
 さのむやみ里をらるる  
 かのむやよ下らる向ふや  
 山葵ありて倍ちり寸草も  
 わらひ採てえんよ流ふいり

太我  
 喜村  
 太我  
 喜村  
 太我  
 喜村  
 太我  
 喜村





壬生念佛

多き深きうし海すくや壬生念佛

太 紙

招きハ多きももきりん壬生念佛

御身裁

止信おそのの心改るやは身裁

永日

さしきま日めりしうや光の坂

水さるるくまんとまきぬ勢の勢

遅日

ゆるゆるおのりお思ふなく存愛

あまのりんらんやあつひのすけ

あまのりんらんやあつひのすけ

春雨

あまのりんらんやあつひのすけ

あまのりんらんやあつひのすけ

あまのりんらんやあつひのすけ

孝 村

あつひのすけ

孝 村

あつひのすけ

あつひのすけ

あつひのすけ

孝 村

あつひのすけ

あつひのすけ

孝 村

あつひのすけ

あつひのすけ

あつひのすけ

あつひのすけ

孝 村

あつひのすけ

孝 村

鳥雲入  
若鮎

蚕 炉塞

結仍能結はるるよ望らうれ  
 炉塞もや老れきる人の俄ちり  
 葉うらしの枝は何ふ蚕うら  
 結おる花よりけり天時  
 天の何ふ女や古き身しる  
 針柄の灯ハ点一蚕時  
 今年より蚕はしるぬ小百姓  
 わらわの遠くを何ふ葉子に  
 地傳る一枝了や梅の花  
 思ふと夏代之ぬるや梅の花  
 交へ打てふ梅うらけさよ

太 武  
 太 武  
 太 武  
 太 武  
 太 武  
 太 武  
 太 武  
 太 武  
 太 武

挑

花

吟てあて年よりけり梅の花  
 雨はやちるよよも花や也  
 梅らやちあささぬははら  
 色はしるよもけり花  
 月よよもさよもる梅の花  
 春戸門のちうめ家や梅の花  
 思つては花んよはう帽よれ  
 口しる花のほまや花うら  
 花もる梅よちるゆら  
 石もる花よはれはうは  
 花ちる花ハらるるはうは

太 武  
 太 武  
 太 武  
 太 武  
 太 武  
 太 武  
 太 武  
 太 武  
 太 武





山吹

山吹や葉よむもよ葉よ花よ花よ  
 山吹を飾りしきくおまきり  
 山吹や花よむもよ入日る  
 草けよよまらぬのちのまらぬ  
 山吹の中はまらぬ花のほ  
 おまきり入るのほ花のほ  
 山吹や花よむもよ川鳥  
 山吹の花よむもよ輪のりぬ  
 連翹や葉よむもよ花のほ  
 花のほよむもよ花のほ  
 花のほよむもよ花のほ

太我  
音  
美  
美  
太我

連翹  
北藤

董  
虎杖

山吹や葉よむもよ花よ花よ  
 山吹を飾りしきくおまきり  
 山吹や花よむもよ入日る  
 草けよよまらぬのちのまらぬ  
 山吹の中はまらぬ花のほ  
 おまきり入るのほ花のほ  
 山吹や花よむもよ川鳥  
 山吹の花よむもよ輪のりぬ  
 連翹や葉よむもよ花のほ  
 花のほよむもよ花のほ  
 花のほよむもよ花のほ

太我  
音  
美  
美  
太我

茶摘

玉抱ひくまをりぬらうや茶摘す

太我

子成る治の門もあまの茶摘す

一とやの茶も摘まうり又し女

つら〜くあ〜ち〜茶園の

春暮

燭の火を鳴まうりや中夜如夕

ちろりけし〜の〜も〜

行春

り〜や旅し生〜ぬ〜のぬ

女ははまもえ〜や〜

ま〜〜の〜お〜

い〜お〜

ゆ〜や〜

上十五

太我

太我

太我

太我

太我

太我

太我

太我

太我

ゆ〜や〜

り〜や〜

先〜や〜

ま〜や〜

太我

太我

太我

太我

俳諧 夏句新五子稿

平安 七嘉會室亨編

其之部

四月

更衣

ささぬねむとけりけり外月ま  
 ぬのきりもく山ささるるふり月  
 物くきまの化務やさるもえ  
 之向ふ庭るさるや又衣  
 子よれハ庭もけり 又衣  
 又衣今さく袖ね鶴をま  
 又衣まーしよまきやとと

蘭更

大祇

蕪村











若楓

その楓も山しき妙の掃きし

若村

葉櫻

葉さくく一本はしやまのさ

太我

其木立

おやま川の月あややま木立

太我

たのまらあやまらくもま立  
故快をまらまら我立くま木立

若村

くまらまらまらまらまら  
わら入まらまらまらまら

系文

新樹

降るまら木造のまら新樹ま

太我

人媚えおまら新樹ま  
望やまらまらまらまら

院文

其州

其野

射まらおぼまらまら

若村

まら方おまら抱まらまら  
角あけまら牛人まらまら

若村

其山

大本まらまらまらまら

系文

其河

まら川や馬繫たまらまら

太我

其竿

竿やまらまらまらまら

太我

まらまらまらまらまら  
まらまらまらまらまら

院文

まらまらまらまらまら  
まらまらまらまらまら

系文









藥玉

懺

粽

競馬

十萬の形やいつまのあやえん子  
 柔ふや酔ひてすまゝはきぢぢ  
 情もよ懺へてさうおれさう  
 古ふそぢぬまゝのほろけ  
 懺へん母さんお女なうけし  
 柔ふるおハ江の西ふあうおぢぢ  
 なぐらあしちまふとく母のお  
 ぬれつハは度聖のあやしうとく  
 廿粒粒おぬしと後うう  
 くら馬新とぬまゝはきぢぢ

系文  
 太我  
 太我  
 太我  
 太我  
 太我  
 太我  
 太我

五月雨

くら馬井ふのこまゝえんよけ  
 五月雨のさうと出せりさうぢぢ  
 一馬のと水風呂だくやあぢぢ  
 五月雨のやあまゝはきぢぢ水  
 旅人や多我ぢ里原あぢぢ  
 塔もも庭のまやあぢぢ  
 抱あつたほろけしあぢぢ  
 五月雨あおのえんとさ旅のあ  
 五月雨や川うらやわぢぢ給  
 けさこれのおくまゝはきぢぢ  
 あぢぢけささうとあぢぢ

時急  
 太我  
 太我  
 太我  
 太我  
 太我  
 太我  
 太我  
 太我  
 太我



五月のめやるねらひの月一ツ多  
 り来らるる城のすゝむや五月の  
 るお子の卯生一ツり五月の  
 ひろくくくと思ふのふた付お月  
 傘絞一其のも来らるる虎の  
 川とあけは伊豆のやまの雨  
 月うけえ竹植一其の竹を  
 竹植一之政坊を待たはくぬ  
 竹多しそく春はうらなは月  
 挿はまは竹の城やならの月  
 片るハかきとくふ一はは月

、 太 太  
 、 太 太  
 、 太 太  
 、 太 太

五月のめやるねらひの月一ツ多  
 り来らるる城のすゝむや五月の  
 るお子の卯生一ツり五月の  
 ひろくくくと思ふのふた付お月  
 傘絞一其のも来らるる虎の  
 川とあけは伊豆のやまの雨  
 月うけえ竹植一其の竹を  
 竹植一之政坊を待たはくぬ  
 竹多しそく春はうらなは月  
 挿はまは竹の城やならの月  
 片るハかきとくふ一はは月

、 太 太  
 、 太 太  
 、 太 太  
 、 太 太

五月のめやるねらひの月一ツ多  
 り来らるる城のすゝむや五月の  
 るお子の卯生一ツり五月の  
 ひろくくくと思ふのふた付お月  
 傘絞一其のも来らるる虎の  
 川とあけは伊豆のやまの雨  
 月うけえ竹植一其の竹を  
 竹植一之政坊を待たはくぬ  
 竹多しそく春はうらなは月  
 挿はまは竹の城やならの月  
 片るハかきとくふ一はは月

、 太 太  
 、 太 太  
 、 太 太  
 、 太 太

紫陽花

紅花

百合

萍

水藻花

五月のめやるねらひの月一ツ多  
 り来らるる城のすゝむや五月の  
 るお子の卯生一ツり五月の  
 ひろくくくと思ふのふた付お月  
 傘絞一其のも来らるる虎の  
 川とあけは伊豆のやまの雨  
 月うけえ竹植一其の竹を  
 竹植一之政坊を待たはくぬ  
 竹多しそく春はうらなは月  
 挿はまは竹の城やならの月  
 片るハかきとくふ一はは月

、 太 太  
 、 太 太  
 、 太 太  
 、 太 太

花昔蒲

むらやえふ尺女身は上るれ

茄子

物に飲らるるけりー茄子汁

瓜

ふらふらたけらるる瓜はくく

瓜はくく 暖もけりけり瓜はくく

瓜はくく 出合ふ瓜や瓜はくく

瓜はくく のなきらるるや瓜のむ

青梅

于瓜やけりや瓜のむ

日や瓜や曲るる胡瓜

若竹

合歡つやや松猿の尻の岩の上

若梅や女うすうす 飯の葉

若梅や盛すうすうす 系文

この竹や枝もかき葉の家は敷

わが竹や枝もかき葉の家は敷

若竹や枝のむらや若竹

わが竹は月の中 系文

わが竹やもまたけりけり

田植

若竹やもまたけりけり

若竹やもまたけりけり

若竹やもまたけりけり

若竹やもまたけりけり

太 祇

太 祇

太 祇

太 祇

太 祇

太 祇

太 祇

太 祇













雲峯

ゆわごとくおすんまゝなるよき事の上  
 夕もろやおを伊れ春はけけけ  
 浪城しけえと糸通うきおろの  
 おおろの度りお時やきおま  
 ちのきん八まにかきひるきおま  
 きおろの既よ小毎の吹かひ事  
 おおつらうきよよきひるきおれ  
 ともたうきおぬあるるうぬ  
 ねよあるや殿の石中記  
 もいもいもいもいもいもいもいも  
 古ああう二女きいもいもいもいも

喜峯  
 太祇  
 喜村  
 曉臺  
 果文  
 太祇  
 喜村

扇

團

団よりけり悲天の扇まららるる  
 虫まららるるもららるる打まらるる  
 かるららるるは色よりぬららるる  
 四玉の笈よりけりけりけりけり  
 本刀も漢つき種着けりけりけり  
 実りけりけりけりけりけりけり  
 中けりけりけりけりけりけりけり  
 土用ほり梅お酒のきりけりけりけり  
 虫けりけりけりけりけりけりけり  
 ひり干や板おけりけりけりけり

太祇  
 喜村  
 太祇  
 喜村  
 太祇  
 喜村  
 太祇  
 喜村

汗涼

ひーやひーや旅のはらばら  
 けらや馬よ肩ぬく神女も  
 すーやあまをいそよ川  
 すーやあまをいそよ川の  
 すーやあまをいそよ川  
 川すー月懐くあまをいそ  
 切すーやあまをいそよ川  
 玉にすーやあまをいそよ川  
 まーやあまをいそよ川

納涼

太  
 果  
 曉  
 喜  
 若  
 村

簞

水練のあまの草すすす  
 一夏のあまの草すすす  
 本すすすすすすすすす  
 裸子よ乳の毛いそよ川  
 娘赤よ髪つるいそよ川  
 一人あまをいそよ川  
 ゆる涼物のあまをいそよ川  
 年あまをいそよ川  
 細腰よあまをいそよ川  
 金山寺あまをいそよ川

若  
 喜  
 曉  
 閑  
 太  
 若  
 村  
 曉  
 若  
 村

竹婦人

けらふく、杜ね〜らぬ牛ぬ人

香露

風薫

吹わらるるまゝあ入らう牛婦人

系文

赤水

うらぬよらるる薫やうや甘露水

香村

清水

春のやあゆむ月よりあ甘露水

系文

葛水

水あつてあゆむ〜らるる門もこけ

太

清水

獨りつら〜らるる甘露水

香村

葛水

うらぬよらるる薫やうや甘露水

系文

清水

水あつてあゆむ〜らるる門もこけ

太

葛水

獨りつら〜らるる甘露水

香村

心

葛水ようらるる〜らるる

太

心

〜らるる〜らるる〜らるる

心太

心

〜らるる〜らるる〜らるる

心太

香露散

飲き〜らるる〜らるる〜らるる

香露散

川狩

川狩やあゆむ〜らるる〜らるる

香露散

林檎

川狩やあゆむ〜らるる〜らるる

系文

蓮

わ〜らるる〜らるる〜らるる

香村

蓮

先い〜らるる〜らるる〜らるる

太

蓮

〜らるる〜らるる〜らるる

瓶の蓮

澤浮

麻

昔は香やほくもくも葉は緑リ  
葉の多や葉もろく百葉はともひも  
沢浮や花はねもふ臭の泡  
沢浮ハ水のくろく矢尻の如  
あやほや麻外あえの照る川  
す川くとおはゆやまー麻留

果文  
太秋  
善村

蓴菜

綿花

夕魚

右左四角よりけきおまげとま  
昔の葉やまもろくちけき水雨  
はは内やわりのふおとくまもろ  
夕魚のゆもたもぬ垣の引  
ゆふ白やまもろくまもろ

果文  
太秋  
果文  
太秋

書白

蝉

夕魚やりぬ蟬一果、  
ゆふ白のむの照るもろくち  
ゆふ白やまもろくまもろぬや造  
うけや花よりかかろくま  
まもろやおはぬけり清おろく  
まもろや町まもろり抗のぬ  
まもろおをりぬれもろくぬ  
鳥まもろくまもろくまもろ  
蟬まもろやり人ゆまもろ  
まもろやまもろくまもろ  
蟬啼まもろも脂のまもろ

善村  
光室  
果文  
太秋  
善村  
太秋  
善村  
果文

蠅

蠅をうらまきもきや開け人 太我

蠅をうらまきや隣もきおふく

出来さる硬の蠅おひらう

蠅まきさるおんをさるう

及虫

及虫はさるおんやおん

复虫

斤おんをさるおん

おんをさるおん

蚋

田の縁や蚋のうらまき



